

他愛もない話

9月15日夕方、わが家に戻ってきた。5日の午後、成田からアトランタ経由、ペールーの首都リマへ飛んで1泊、翌日、クスコへ飛び、インカトレールを3泊4日のテント山行で辿り、マチュピチュを訪ねた。マチュピチュのランドマークともいえるワイナピチュにも登り、帰路にはナスカにまわって地上絵も楽しむという、アルパインツアーサービス企画実施による充実の山旅であった。時差がマイナス 3 時間、充実すぎてくたびれたあ。

毎度のことながら、わが家に戻ってまっ先にやることは、新聞に目を通すこと。それぞれに義理を感じているので、朝日と東京新聞の2紙を定期購読している。

東京新聞に「わが街わが友」という連載コラムが載っている。15日の朝刊は寺田農氏による全12話のうちの7話目で、「日比谷映画街」が取り上げられていた。

寺田氏は好きな俳優さんの一人である。高校時代には学校をサボって日比谷の映画街に通ったようである。高校2年の時、ヒッチコック監督の「めまい」を観て、主演女優のキム・ノヴァクに一目惚れ。「わたしの初恋であった」とある。

同級生とお気に入りの女優にファンレターを書こうということになり、一人は「芽生え」のジャクリーヌ・ササール。もう一人は「トロイのヘレン」のロッサナ・ボデスタ。寺田さんはもちろんキム・ノヴァクである。「しょせん高校生のあこがれというもので、他愛もない」と書かれている。

忘れかけた頃、エアメールでキム・ノヴァクのサイン入りポートレートが届き、寺田氏は感激しているのだが、ロッサナ・ボデスタさんへファンレターを書いた人には返事は届いたのであろうか。

ぼくはサイン入りポートレートどころか、ロッサナ・ボデスタさんと一緒に東北の岩木山に登り、並んで写真も撮っている、なあんて他愛もない話。

インカトレールに出発する前日、古いケイタイを国際通話可のものに買い換えた。が、操作に不馴れで、うまく通じない。帰る頃になって、ようやく操作できるようになった。入っていたメールをみると「帰りの飛行機の中で、連絡帳の原稿を書いておけ」とある。リマからアトランタまで6時間半、成田まで13時間もあるのだから、書く時間はたっぷりあるのだから、くったびれちゃって頭が働かない。「他愛のない話」なら書けるかなと思ったのだが、待てよ、「たあい」じゃなくて「たわい」じゃないかと思ひ始めたら、書けない。

わが家に戻って新聞を広げたら、寺田さんの「他愛もない」エピソードがあり、辞書を引いたら、「たわいない」もあって、どちらも「正体がない、思慮がない」ということで同じ意味であった。

ロッサナ・ボデスタさんは、イタリアを代表する登山家ワルテル・ボナッティさんの奥様である。1998年、氏が来日したとき、ご一緒に岩木山に登ったのであった。